



## DNS サーバの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS での DNS サーバ, 1 ページ](#)
- [DNS サーバの設定, 1 ページ](#)
- [DNS サーバの削除, 2 ページ](#)

### Cisco UCS での DNS サーバ

システムがホスト名の名前解決を必要とする場合は、使用する外部 DNS サーバを各 Cisco UCS ドメインに指定する必要があります。たとえば、DNS サーバを設定していないと、ファブリック インターコネクトに関する設定を行うときに、[www.cisco.com](#) などの名前を使用できません。サーバの IP アドレスを使用する必要があります。これには、IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを使用できます。各 Cisco UCS ドメインに対し最大 4 台の DNS サーバを設定できます。



(注) 複数の DNS サーバを設定する場合、システムによるサーバの検索順はランダムになります。ローカル管理コマンドが DNS サーバの検索を必要とする場合、3 台の DNS サーバのみをランダムに検索します。

## DNS サーバの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <code>scope system</code>	システム モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /system # <b>scope services</b>	システム サービス モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /system/services # <b>create dns</b> { <i>ip-addr ip6-addr</i> }	指定した IPv4 または IPv6 アドレスの DNS サーバを使用するようシステムを設定します。
ステップ 4	UCS-A /system/services # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、IPv4 アドレス 192.168.200.105 の DNS サーバを設定し、トランザクションを確定する例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope services
UCS-A /system/services # create dns 192.168.200.105
UCS-A /system/services* # commit-buffer
UCS-A /system/services #
```

次の例では、IPv6 アドレス 2001:db8::22:F376:FF3B:AB3F を持つ DNS サーバを設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope services
UCS-A /system/services # create dns 2001:db8::22:F376:FF3B:AB3F
UCS-A /system/services* # commit-buffer
UCS-A /system/services #
```

## DNS サーバの削除

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /system # <b>scope services</b>	システム サービスモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /system/services # <b>delete dns</b> <i>ip-addr</i>	指定した IP アドレスの NTP サーバを削除します。
ステップ 4	UCS-A /system/services # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、IP アドレス 192.168.200.105 を持つ DNS サーバを削除し、トランザクションを確定する例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope services
```

```
UCS-A /system/services # delete dns 192.168.200.105  
UCS-A /system/services* # commit-buffer  
UCS-A /system/services #
```

